

=====

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
2022年3月期 第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

=====

<概要>

- ◇開催日時：2022年2月4日(金) 16：30-17：30
 - ◇内容：2022年3月期 第3四半期業績の説明
 - ◇説明者：(株) ジーエス・ユアサ コーポレーション コーポレート室長
兼 (株)GSユアサ 取締役 理財部長 松島 弘明
-

<ご留意事項>

この「質疑応答要旨」は、決算説明会での発言内容全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

*文中における略称について

- ・BEC：株式会社ブルーエナジー
- ・LEJ：株式会社 リチウムエナジー ジャパン

【質問①】

車載用リチウムイオン電池事業について、業績予想で4Qの営業利益が少ないのはなぜか。新車メーカーの生産は回復しつつある中、新工場の立ち上げ費用や、半導体不足の影響等もあると思うが、3Qと4Qの利益の変化についてはどう考えているか。

【回答①】

新車メーカーの挽回生産について、直近になって状況が厳しくなり、想定よりは売上・利益が落ちるとみている。ただ、保守的な予想であるという認識はある。

【質問②】

採用車種が増えているのは、トヨタ様向けか。ハリアー以外にも搭載されているのか。

【回答②】

具体的な車種名は申し上げられないが、ホンダ様以外のメーカーでも搭載車種数が増加している。

【質問③】

業績予想を慎重にみているのは LEJ と BEC どちらの影響が大きいのか。

【回答③】

両方だが、どちらかというとならば BEC の影響が大きい。

【質問④】

天津工場の減損について、工場移転の関連の話もあったが、内容を教えてほしい。また、天津は新工場への移転で生産能力を倍増させるという話があったが、工場移転時にうまくいかなかったのはなぜか。旧工場から新工場へ移転しきれしていないのか。

【回答④】

2019 年 3 月から新工場で量産を開始していたが、予定よりも遅れていた。新工場への移転のきっかけは中国での環境規制によるもので、旧工場から移転せざるを得なかったため。現在、旧工場は完全に停止しており、移転は完了している。移転が遅れた理由は、政府の認可手続きの遅れ、天津大爆発による環境・消防法規制などの強化が厳しくなったこと。加えて 2019 年 3 月の稼働開始以降、新型コロナウイルスの影響もあり、日本の生産技術部門による支援がすべてリモートとなり、歩留まりの改善ができずラインアップ追加もできなかった。その間に中国メーカーの品質改善が進み、キャッチアップされたことで拡販が難しくなった。

【質問⑤】

今回の減損損失は天津杰士電池有限公司のみか。

【回答⑤】

今回の減損損失のうち、天津杰士電池有限公司の減損損失で約 48 億円、そのほかに小田原事業所の閉鎖による減損損失で約 5 億円、自動車用電池の新事業化に向けての設備を研究開発用に転用するため、約 3 億円の減損損失を計上している。

【質問⑥】

EV 用電池について、研究開発リソースを増やしていくという話があったが、2Q からのアップデートはあるか。政府からの補助金についての考えは。

【回答⑥】

2Q 決算説明会時に社長の村尾から「EV 用についても開発の軸足を移していく」と発表があったが、そこからの大きなアップデートはない。引き続き 2022 年度以降も研究開発を進めていく。

政府の補助金に関しては、詳細は申し上げられないが、産業電池電源事業などにて引き合いが多くあるため、有難い状況ではある。

【質問⑦】

自動車電池事業の国内について、季節性を踏まえても 4Q の営業利益予想が低く感じるが、その要因は。2 月から国内の補修用で値上げをするのでもう少し利益が伸びるのでは。

【回答⑦】

補修用の取り換え需要は、12 月～1 月ごろまでは旺盛だが 2 月ごろから少なくなることもあり、営業利益予想がそれほど低い数値とは考えていない。鉛価格の上昇についてはある程度影響はある。加えて半導体不足の影響で新車の生産が落ち込む可能性もある。補修用の値上げの反映には時間がかかるので 2022 年度に期待してもらいたい。

【質問⑧】

天津杰士電池有限公司について、早い段階で黒字化を目指すとの方針だと思うが、いつごろを目途に考えているか。

【回答⑧】

来期に黒字化できるかどうかは不透明だが、再来期には黒字化を確実にすべく動いている。現時点で生産技術部門の強化を既に行っているため、生産体制は早い段階で改善できると考えている。今後は販売体制を強化していきたい。

【質問⑨】

3Q までの設備投資の実績と今期の計画は。また、来期の設備投資の方向性は。

【回答⑨】

現時点では、3Q までで約 200 億円強の実績。通期の計画に変更はないが、損益の状況を見ながらになるので流動的。来期は BEC 第二工場に関する追加投資などもあり、今期の予想よりも増加する見込み。

【質問⑩】

産業電池電源事業について、2023年3月期は大型風力発電向けの納入がなくなり減収要因にはなるが、既存ビジネスの売上が伸びるのではと考えている。政府の補助金の話もあり、大型風力発電向けの納入分を相殺できるほどの売上を期待しているが、どのように考えているか。

【回答⑩】

政府からの補助金によるものを含めて様々な引き合いがあり、一部決定している案件もある。大型風力発電向けほどの大規模の案件はないが、中規模の案件はある程度獲得できると考えている。大型風力発電向けの納入分を穴埋めできるほどかはわからないが、利益面では一定の改善が見込めると考えている。2020年度・2021年度の大型風力発電向けの案件は、売上面ではプラスだったが、納入時に利益面ではマイナスになる契約だった。今後の20年間の保守メンテナンス契約により、トータルでは利益面でもプラスになる見込み。そのため、大型風力発電向けの納入がない2022年度は、中規模の案件の受注をある程度獲得できれば、+αの利益を見込めると考えている。

【質問⑪】

営業利益の増減要因について、「経費等」の△31億円の内訳は、2023年3月期も継続していくのか。

【回答⑪】

海外でおおよそ3分の2を占めている。コンテナ不足等による物流費の増加、人件費の高騰などが主要因。2022年度以降については未定だが、足元の情勢を鑑みるとある程度続くのではと考えている。

以上